

希学園 第413回 小6公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第413回公開テスト 小6国語 解説動画(2026年10月11日実施)	https://vimeo.com/1234298459/142b4d2d66

1

a

易しい

b

見当

c

家庭

2

(記述題)

3

A

ト

B

解

C

か

4

I

エ

II

イ

III

ウ

IV

ア

(完答)

5

文脈

6

したがって

7

ちん

8

ア

9

エ

10

i

ア

ii

イ

iii

ア

iv

イ

v

ウ

11

エ

(完答)

2

1

a

山間

b

確信

c

感心

2

A

め

B

背

C

鳥

D

青

3

正体を知っ

4

ウ

5

(記述題)

6

(記述題)

7

X

河

Y

川

8

聡の友だち

(完答)

9

I

×

II

×

III

○

IV

×

V

○

VI

×

(完答)

10

ア

○

イ

×

ウ

○

エ

(完答)

1

2

聞いていてわからなかった会話の内容がわかるよう	聞いたってわからなかった。経験。	がわかったとたんに会話の内容がわかるようになった経験。	になつた経験。
-------------------------	------------------	-----------------------------	---------

(同意可)

2

山口が仏壇の写真を見て「川の人」の正体に気づいてしまい、もう「川の人」に会ったり話したりできなくなると思つたから。

(同意可)

6

仏壇にある「川の人」そっくりの写真の人が	義一さんの息子だと聞いてとまどう気持ち。
----------------------	----------------------

(同意可)

【配点】

その他 1 1 2 1 3

2 2 5 1 6 2

各2点×13＝26点
各6点×3＝18点
各4点×14＝56点

- ① (西林克彦『わかったつもり 読解力がつかない本当の原因』より) ※設問の都合により一部表記を変更しています。
 - 1 a 「易しい」は「場」や「陽」の右側とは形が違う。同訓異字の「優しい」とも区別をしておこう。b 「見当」は「検討」との区別をつけておくこと。「見当もつきません」という言い方だけで「検討」ではないことが判断できる。c 「家庭」も「過程」「課程」「仮定」など、さまざまな同音異義語と区別できるようにしておこう。また「庭」の中は「延」ではなく「廷」である。
 - 2 一行目から五行目の話をまとめることはわかるだろう。制限字数内にうまくまとめられるかどうかのポイントとなる。この後の文章内容の「文脈(何の話か)」がわかると話がわかる」という話につながっていく内容である。
 - 3 A 「トライ」：試みること。B 「氷解」：氷が解けるようにすべてが理解できること。C 「かくも」：これほどにも。
 - 4 I 「わからないものではありません」↓でも↓「わかりません」。II 「知識は膨大」↓したがって↓「一時に全部使うことなど到底できません」。III 「その場に応じてある部分の知識を持ちだしてくること」↓または↓「全体の知識の一部分にスポットライトを当てて使えるようにすること」。IV 「これまでの部分をふまえて、最後のまとめに入るための「さて」。
 - 5 「ここまで『何の話』という言葉を使ってきましたが、これを認知心理学では、『文脈』と呼びます」とあった。
 - 6 傍線部の「これ」は直前の「何の話かがわからなければ、話はわからない」を指している。答えにあたる文は「したがって、『何の話かがわからなければ、話がわからない』のは、どの『スキーマ』を使っていいたかわからないためなのです。」であり、この文でもう一度その問いかけが提示されている。
 - 7 「それまで」④ だった文章が、わかるようになりますから、「わからない」という意味の言葉が入ることがわかる。第一段落やブランスフォードたちの文章の直後に、「ちんぷんかんぷん(『さっぱりわからない』)」という字数に合う言葉がある。
 - 8 パラシュートの布が破れたら、落下速度が速くなってしまふ。そのときに重要な役割を果たすのが、クッションとなる干し草の山である。他のスキーマでは干し草が重要になる結果に結びつけるのが難しいだろう。
 - 9 直後の段落で「それに対しては……ちよつとだけ説明を試みてみましょう」とあるので、この後の説明を読み進めていこう。「活性化」されないと、「スキーマ」を使うことができないという説明が出てくる。
 - 10 これまでの説明を元に一つずつ入れていけばよい。「文脈」がわかると、「スキーマ」が「活性化」されるということを理解しておけば特に難しくはないはずである。
 - 11 ア：「文脈がわからないことのみ」がおかしい。たとえば「風に関する知識」がない人は「風を作って揚げる」という文脈がわかっても話がわからないはずである。イ：「すべての人が理解できる」についても同様である。ウ：「一線を画している」がおかしい。文や文章についてのことも含んでいる。エ：最後から三つ目の段落に書かれている。
- ② (山下みゆき『朝顔のハガキ 夏休み、ぼくは「ハガキ」の人に会いに行った』より) ※設問の都合により一部表記を変更しています。
 - 1 a 「山間」とは、山と山の間、山の中のこと。意味がわかっていれば容易だろう。b 「確信」は「確かであると信じること」。「信」を「心」としないように気をつけよう。c 「感心」はりっぱな行為やものに対して、心に深く感じ入ること。「関心」「寒心」などの同音異義語との区別を確実にできるようにしておこう。
 - 2 A 「昔めいた」：「くめく」は接尾語。この場合、「それに似た様子を暗示意味」である。B 「背筋が凍りつく」：恐怖などのためにぞつとする。C 「鳥肌が立った」：寒さや恐怖によって、皮膚に鳥肌があらわれる。D 「青ざめて」：顔色が青白くなる。BとDは恐怖を示す言葉として共通点がある。
 - 3 直後にも説明があるが、字数が合わない。本文最後に「俺」が「山口」にルールを説明したところがある。
 - 4 「川の人」が言った内容に対して「えっ、でも河童って、危ない妖怪ってことになってますよね」という返答をしていることからわかることがある。
 - 5 直前の「山口はとんでもなくにぶいから、もう少し会ったり、話したりできるんだと思っていた」という文から、「だから、……義一さんが仏壇を開いているのを見た時は『あっ』と思った」という文につながっていることに注目する。仏壇の写真を見たら、さすがににぶい山口も「川の人」の正体に気づくので、もう「川の人」に会えなくなるのではないかと思ったのである。
 - 6 仏壇にある写真が「川の人」にそっくりだということには山口も気づいた段階である。それを「聡」だと言われてどう思ったか。この段階ではまだ山口の中で「川の人」II 「聡」だと確信するに至っていないので書き方に気をつける必要がある。なぜなら後で「俺」に「聡さんが『川の人』なの？」と質問し、よくわかっていないことが示されているからである。
 - 7 X 前の「引退した」や後の「引き継いで」をヒントにしよう。「川の人」に聞いたそのあたりの話を振り返ればよい。
 - 8 問いの「ここより前」という指定を見のがさないこと。義一の発言をたどっていくと「友だちがたくさん集まってな」とある。発言をさらにさかのぼると、「聡の友だち」という適切な五字の言葉がある。
 - 9 I：仏壇にある写真(遺影)を指して「それは、わしの息子の聡じや」と言っている。II：「四月に亡くなったという、久子さんだ」とある。ちなみに、久子は義一の妻で、聡の母親である。III：山口が「うちのばあちゃんに渡したらいいんだ」と言っている。IV：「山口のじいちゃん」II 「聡」II 「川の人」である。V：「俺」も山口も義一と普通に会話している。また、前書きにもあるようにハガキを送ってきたのは義一である。VI：「白井さん(義一)の息子」II 「聡」である。落ち着いて一つ一つ確認していこう。
 - 10 ア：「聡」II 「山口のじいちゃん」である。その聡を「わしの息子」と言っていたのが義一であるから義一は山口のひいおじいさんということになる。イ：溺れたのは「川」ではなく「海」である。ウ：「白井さんの息子の恋人って、ぼくのばあちゃんのことですね」と山口が言っていた。エ：もし最初から正体を知っていたら話ができないので、矛盾が生じる。